| １８ | 豊田 | 猿投台中学校 | クロヤナギ　ショウ<br>氏名　　黒柳　渉 |
|---|---|---|---|

| 分科会番号 | 特 | 分科会名 | 「特別の教科　道徳」特別分科会 |
|---|---|---|---|

研究主題　　仲間と意見を高め合い、よりよい生き方を考えられる生徒の育成
―　２年　スプラトークと行事を絡めた実践活動を通して　―

研究要項

**１　主題設定の理由**

本学級は、生徒会が主催する生活を改善するキャンペーン等に仲間と協力して前向きに取り組む生徒が多い。しかし、生徒の一部には、周りのことを考えず、自分勝手な行動をして迷惑をかける行為が見られる。自分勝手な行動をするものが増えれば、集団生活がしにくくなり、生徒たちが楽しく学校生活を送ることができなくなる。そこで、自分たちの生き方をよりよくするために、法やきまりについて考える場面を設定し、話し合いをすることにした。賛成・反対・中立の立場を決めて話し合うことで、よりよく生きるために何が必要なのかを考えたい。

学習指導要領における道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とある。本研究では、法やきまりについて仲間と話し合いを通じて意見を高め合い、よりよい生き方について考えられる生徒の育成をめざす。これらを達成するためには、多様な意見を受け入れられる人間関係と自分事として捉えられる機会を設けることが重要だと考える。

他者の気持ちを理解し、課題を多面的・多角的に捉えるための教材として「美しい鳥取砂丘」を選んだ。３人１組で賛成・反対・中立の立場に分かれて話し合いをし、そこで出た意見に対して教師の意図的な問い返しをする。それによって課題と自分の生き方とを結び付けて考えられるように促す。また、授業を通して得た気付きを実践する場として自然教室を設定し、事前に目標を設定することで自分事として課題に向き合い、よりよい生き方を考えられる生徒の育成をめざした。

**２　めざす生徒像**

本実践では研究主題と照らし合わせ、めざす生徒像を以下のように設定した。

・多様な意見を受け入れ、課題に対して多面的・多角的に考えることのできる生徒
・相手の立場や感情を思いやり、課題を自分事として捉えて課題に向き合い、よりよい生き方を考えられる生徒

## 3　研究の内容

### 研究の仮説と方法

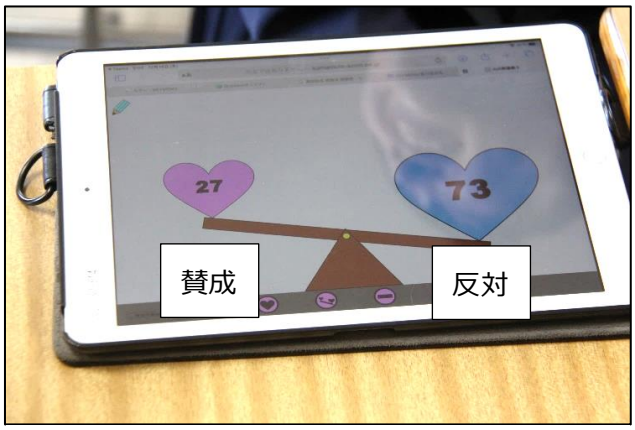
| |
|---|
| **仮説１**　賛成・反対の立場に分かれて、それぞれの立場から課題に向き合って話し合う場を設定すれば、課題に対して多面的・多角的に考えることができるだろう。 |

**手だて１－①　短学活を活用した導入**

道徳の授業を行う前日の短学活を活用して教材を読み、Forms を用いて感想や疑問を収集する。これによって、教材に対する生徒の考えを事前に把握する。また、授業中に教材を読む時間を短縮することで、話し合いの時間を十分に確保する。

**手だて１－②　「スプラトーク」の実施**

３人１組でグループを編成し、賛成・反対・中立の立場に分かれて話し合いを行う。話し合いの立場はランダムで決める。自分の考えがない生徒もいるので、それぞれの立場で話し合いに参加できるように Skymenu の気づきメモを活用して、賛成・反対の立場で集まり、それぞれの立場の意見を事前に深めさせる。中立役は双方の意見の聞き役となり、納得できた意見に応じて心の数直線**（資料１）**を用いて心の傾きを表す。この活動を「スプラトーク」と命名する。この活動を通して、異なる立場の考えを知ることで課題を多面的・多角的に考えるようにする。




**【資料１　心の数直線】**

| |
|---|
| **仮説２**　教師が意図的な問い返しをして課題を自分の生活に結び付けられれば、自分事として課題に向き合うことができ、実践する場を設ければ、よりよい生き方を考えることができるだろう。 |

**手だて２－①　教師の意図的な発問**

課題について多面的・多角的に話し合った後、自分の生活に結び付けられるように教師の意図的な問い返しを行う。そうすることで、自分事として課題に向き合い、よりよい生き方を考えることができるようにする。

**手だて２－②　行事を絡めた実践活動**

道徳の授業を通して考えたよりよい生き方について行事を通して実践し、振り返りを行う。行事に向けて自ら課題を設定し実践意欲を高め、自分事として課題に取り組むことで道徳的な判断力を身につける。

## 4　研究計画

### （１）抽出児童生徒について

| | 生徒の実態 | 教師の願い |
|---|---|---|
| 生徒Ａ | 生徒会が主催する生活を改善するキャンペーンや、公開授業などでより多くの人が教室に立ち入るような場合には、ロッカーなどの整理整頓を意識できている。しかし、普段の生活ではロッカーから鞄が落ちても注意されるまで自分からは直さないことがあり、他者への配慮が足りず、周囲に迷惑をかけてしまうことがある。 | あらゆる場面において他者の存在を意識し、思いやりのある行動ができるようになってほしい。また、規則を守る意義について学び、他者に対しても、注意ができるようになってほしい。 |

### （２）仮説実証のための検証授業

＜検証授業Ⅰ＞
（１）教材名　「美しい鳥取砂丘」　内容項目〔C－(10)　遵法精神、公徳心〕
（２）ねらい　「スプラトーク」を通して考えを広げ、それぞれの立場から課題に向き合って話し合い、課題に対して多面的・多角的に考える心情を育てる。

＜検証授業Ⅱ＞
（１）主題名　「自然教室に向けて」　内容項目〔C－(10)　遵法精神、公徳心〕
（２）ねらい　授業で考えたことから普段の生活を見直し、自然教室に向けて課題を立て、よりよい生き方をしようとする実践意欲を育てる。

＜検証授業Ⅲ＞
（１）活動名　「自然教室（スキー）」
（２）ねらい　自ら立てた課題を意識して生活し実践することで、道徳的な判断力を育てる。

## 5　研究の実態と考察

### （１）検証授業Ⅰ：教材「美しい鳥取砂丘」を通して遵法精神、公徳心について考える。

#### ①　短学活を活用した導入（手だて１－①）

道徳の授業を行う前日の短学活を活用して教材を読ませた。読んだ後で感想や印象に残った言葉、疑問に思ったことなどを Forms で回答してもらうことを事前に説明した。

その結果、生徒Ａは「落書をなくす条例を作るのはいいと思った」と感想を書き、落書きを止めたい立場であることが分かった。**（資料２）**

この取組により、生徒が概ね内容を理解できていることや落書きに対して否定的な意見をもっている生徒が多いこと分かった**（資料３）**。

・楽しみにしていた鳥取砂丘が落書きでいっぱいだったら確かにとてもいやな気持ちになるなと思いました。
・落書きに困っている人が多くいそうだと思いました。
**・落書きをなくす条例をつくるのはいいと思った。　（生徒Ａ）**
・観光客が鳥取砂丘の美しい景色を見に来ている人のために、条例で罰金を設定したのに改善されないのは残念だと思った。

**【資料２　「美しい鳥取砂丘」を読んで】**

### ②　「スプラトーク」の実施（手だて１－②）

３人１組になるように教師がグループを編成した。この時、できるだけ班に１人リーダーを経験したことのある生徒を含むようにし、話し合い活動が活発に行えるように班編成をした。また、今回の事前の調査から落書きをすることに反対の立場の生徒が多かったので、課題を多面的・多角的に考えるためにあえてランダムで立場を決めることにした。

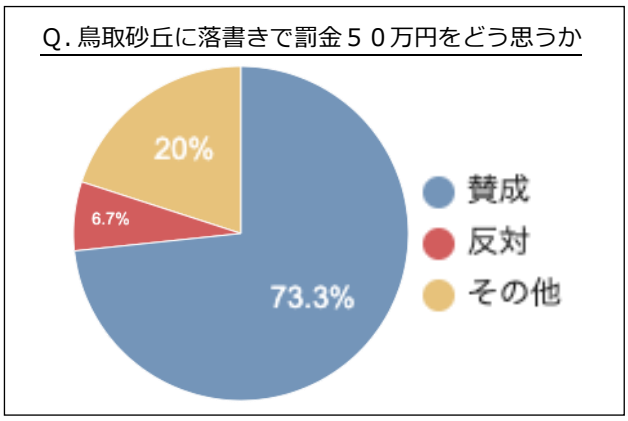
話し合いは、落書きをしたい人・落書きを止めたい人・中立に分かれて行った。初めに、Skymenu の気づきメモを活用して、それぞれの立場に分かれて意見を出し合った。その後、気づきメモで出た意見を基に話し合いを始めた。中立役は双方の意見の聞き役となり、納得できる意見に応じて心の数直線を用いて心の傾きを表すように指示した**（資料４）**。

この時、生徒Ａは落書きを止めたい人の立場から「鳥取のイメージを上げるために落書きはない方がいい」という考えを主張していた。落書きをしたい人の「時間が経てば消えるし、自由に落書き出来たら楽しい」という意見に対して生徒Ａは、「書いている本人は楽しいかもしれないけど、消えるまでにがっかりする人はたくさんいると思う」と返した。この班の中立役は特に生徒Ａの「自然に人の手が加わると魅力がなくなってしまう」という意見に納得し、生徒Ａの考えに傾いた**（資料５）**。

他のグループからは「はじに書けばいい」や「自分が満足できればよい」、「景色を楽しみたい人の迷惑」、「大きいと消すことが大変」などの意見があった。

### ③　教師の意図的な問い返し（手だて２－①）

生徒Ａは落書きを止めたい立場であったが、話し合いでは落書きをしたい人のことを考えている様子がなかった。そこで、多様な意見を受け入れられるように、教師から「今出た意見はお互いのことを考えられているか」と問い返しを行い、自分の意見だけではなく、相手意識をもたせるよ




**【資料３　賛成・反対の比率】**

**【資料４　話し合いの様子】**

| | |
|---|---|
| 生徒Ａ | 落書きがあると鳥取のイメージが悪くなると思う。 |
| 生徒Ｂ | 観光に来てるなら自由に楽しめる方がいい。 |
| 生徒Ａ | でも、みんなが見るところに描くのは違うんじゃないかな。 |
| 生徒Ｂ | 描いたのはすぐ消えるし楽しいよ。 |
| 生徒Ａ | **書いている本人は楽しいかもしれないけど、消えるまでにがっかりする人はたくさんいると思う。** |
| 生徒Ｂ | でも、落書きして消したらもっときれいになるかもしれない。 |
| 生徒Ａ | え、なるの。 |
| 生徒Ｂ | 描いて楽しんで綺麗にするからいい。 |
| 生徒Ａ | でも、鳥取砂丘は自然で綺麗になったから、**自然に人の手が加わると魅力がなくなってしまう。** |

**【資料５　話し合いの内容】**

うに班で話し合わせた。話し合いでは、「どちらかの意見ばかりを聞くのは問題解決につながらない」や「ルールを見直す必要がある」などの意見が出た。その後生徒Ａは、「鳥取砂丘を７：３に分けて描いていい場所を作るとよい」と発表した。この考え方から、落書きを止めたい人の考えだけでは根本的な解決に繋がらないということに気付き、双方が納得するためには新しい規則を生み出す必要があると考えるようになった。

生徒Ａの授業の振り返りでは、「落書きはいけないことで描いている人を否定していたけど、自分の立場のことしか考えていなかった。描いている人の立場に立って考えてみると、描く人のことも理解できるかなと思ったのでこれからは自分ではない相手の立場になって考えてみたい」と振り返り、生徒Ａが課題に対して多面的・多角的に考える姿が見られた。

**（２）検証授業Ⅱ：主題「自然教室に向けて」を通して１人１人が課題を設定し、実践意欲を高める。**

道徳の授業を通して考えたよりよい生き方を実践するために、自然教室に向けて目標を決めることにした。初めに、「美しい鳥取砂丘」を通して学んだことからその後生活の中で実践していることを聞いた。生徒Ａは「観光地や公共の場では、あまりさわがずに迷惑にならないようにしている」と答えた。

次に、自然教室での目標を決めるために自然教室で自分たち以外の利用者が使う場所を聞いたところ、お風呂や部屋、トイレ、食堂、ゲレンデなどが挙げられた。そして、すべての利用者が気持ちよく利用するために私たちができることについて考えさせた。生徒Ａは「静かに生活する。マナーを守る。感謝をしっかりする」と目標を決め、人に迷惑をかけないことを意識するようになっていた。他の生徒についても自然教室に向けて１人１人が課題を設定することができた**（資料６）**。

・関わる人へ気持ちのよい挨拶をする。
・借りたものを丁寧に扱う。
・ゴミはしっかり捨てたり持ち帰ったりする。
・話をしっかり聞く。
・周りの人のことを考えて行動する。
**・静かに生活する。マナーを守る。感謝をしっかりする。　（生徒Ａのワークシート）**

**【資料６　自然教室での目標】**

**（３）検証授業Ⅲ：活動「自然教室」を通して、自ら立てた課題を実践し、よりよい生き方を考える。**

**④　行事を絡めた実践活動（手だて２－②）**

生徒Ａは自然教室の１日目、「人に迷惑をかけないようにする」ことを課題にして過ごした。１日の振り返りに「人のために動くことができなかったので、明日は人のためにできることをすすんでできるようにしたい。」と書いた。２日目は、新たに「整理整頓をし、感謝をしっかり伝える」ことを課題とした。特に部屋の整理整頓ができていなかったので、自分から率先して整理整頓をし、班員に声かけを行った。そして、「今日は昨日できなかったことをしっかりできたので明日もしっかりしたい」と振り返った。３日目は、「よい形で自然教室を終える」ことを課題とした。人に迷惑をかけないように次の次の予定までしおりを読んで確認したり、気持ちのよい挨拶を意識したりした。振り返りには、「今日はよい形で自然教室を終えることができたので、今日できたことを来週の学校で生かしたい」と書いていた。自然教室の感想には、「感謝を伝えることや、挨拶をしっかりするなど、学校や他の場でも大切になってくることもあったので、しっかりできるようにしたい」とまとめており、自分以外の人を意識して行動しようとする姿が見られた。

## 6　研究の成果と今後の課題

### （１）仮説１について

手だて１－①では、短学活を利用した授業の導入を行い、生徒の理解度を事前に把握することで当日の導入を簡易化することができた。そのため、１時間の中で話し合いの時間をしっかりと確保することができ、生徒の思考をより深めることにつながった。

手だて１－②では､｢スプラトーク｣を行うことで自分と異なる他者の考えを理解するきっかけとし、課題に多面的・多角的に向き合うことができた。生徒Ａは落書きしたい派の「楽しい」や「時間が経てば消える」などの自分本意な意見を否定するために頭を働かせ、「がっかりする人もいる」という客観的な視点で考えをもつことができた。立場を設定して話し合いをすることで、道徳の「正解」を求める授業ではなく、課題に対して多面的・多角的に考えることができたと言える。

以上のことから、仮説１に対する手だては有効であった。

### （２）仮説２について

手だて２－①では、落書きをしたい人の意見を一方的に否定していた生徒Ａは、「お互いのことを考えられているか」という問い返しによって「自分ではない他の人の立場になって考えたい」と振り返ることができた。また、「みんなが使う場所をみんなが気持ちよく利用するためには何が必要か」という発問によって、鳥取砂丘の事例に限らず、自分の生活に結び付けて考えることができた。

生徒Ａは、以前まで教室のロッカーの整理整頓が苦手で、荷物が度々落ちてしまうことがあったが、自然教室の体験を通して、他者を意識してマナーを守る大切さを再認識し、自分が守るだけではなく、守れていない人に声をかけることができるようになった。

手だて２－②では、道徳の授業と自然教室とをつなげて考えることで、より自分事として課題を捉えることができ、実践意欲を高めることができた。また、その過程で道徳的価値に触れ、よりよい生き方に気付き向き合うことができた。

以上のことから、仮説２に対する手だては有効であった。

### （３）今後の課題について

本研究で取り組んだ実践では、めざす生徒像「仲間と意見を高め合い、よりよい生き方を考えられる生徒の育成」の手だてとして有効であったと考える。「スプラトーク」によって課題を多面的・多角的に考え､教師の意図的な発問や行事との連携によって､より自分事として課題に向き合うことができた。

しかし、実践するにあたって教師の意図的な問い返しを心掛けたが、生徒の発言や反応を事前に予測することの難しさに気付いた。研究を終えてからも問い返しのスキルを磨いていきたい。

生徒Ａは今年３年生になり、２年次に学んだことを生かして、ロッカーの整理整頓や自分から挨拶をすることを継続している。また、学級の代表として声かけを行い、みんなが気持ちよく生活できるように周囲に気を配ることができるようになった。この実践を引き続き行い、生徒Ａのさらなる成長を見守っていきたい。